

作成日 2018年8月14日（第1版）

改訂日 2024年4月1日（第3版）

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 抗寄生虫抗体スクリーニング検査薬
構成試薬 : 「反応シート」
: 「酵素標識抗体」
: 「カゼイン緩衝液」
: 「PBS」
: 「基質液」
: 「基質補助液」
製品コード 140277
会社名 富士レビオ株式会社
住所 東京都港区赤坂1-8-1
担当部署 お客様コールセンター
電話番号 0120-292-832
緊急連絡電話番号 0120-292-832
推奨用途と使用上の制限 研究用試薬

2. 危険有害性の要約

「基質補助液」

成分（危険有害物質）：過酸化水素（ $\leq 5.5\%$ ）

GHS分類

健康に対する有害性：皮膚腐食性/刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
発がん性	区分2
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分2（呼吸器系）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分2（呼吸器系）

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語： 危険

危険有害性情報：重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

重篤な眼の損傷

発がんのおそれの疑い

臓器の障害のおそれ(呼吸器系)

長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ（呼吸器系）

注意書き：

- 【安全対策】 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。取扱い後は手などをよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- 【応急措置】 気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。
吸入した場合は：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
飲み込んだ場合は：口をすすいで、無理に吐かせないこと。
皮膚（または髪）に付着した場合は：直ちに汚染された衣類をすべて脱いで、皮膚を水（またはシャワー）で洗うこと。
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当を受けること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- 【廃棄】 内容物や容器を廃棄する場合は、地方/国の規制に従って廃棄すること。

「基質液」

成分（危険有害物質）：エタノール（ $\leq 80\%$ ）

GHS分類

物理化学的危険性：	引火性液体	区分2
健康に対する有害性：	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
	発がん性	区分1A
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器身毒性（単回ばく露）	区分3 （気道刺激性・麻酔作用）
	特定標的臓器身毒性（反復ばく露）	区分1（肝臓）
	特定標的臓器身毒性（反復ばく露）	区分2（中枢神経系）

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語： 危険
危険有害性情報：引火性の高い液体および蒸気
強い眼刺激
発がんのおそれ
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ、または、眠気またはめまいのおそれ
長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害（肝臓）
長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ（中枢神経系）

注意書き：

- 【安全対策】** 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。
 禁煙。容器を密閉しておくこと。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 取扱い後は手などをよく洗うこと。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 火災の場合：消火するために水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類を使用すること。
- 【応急措置】** 気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。
 吸入した場合は：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚（または髪）に付着した場合は：直ちに汚染された衣類をすべて脱いで、皮膚を水（またはシャワー）で洗うこと。
 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当を受けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当を受けること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 【保管】** 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
【廃棄】 内容物や容器を廃棄する場合は、地方/国の規制に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名： 研究用試薬

成分及び含有量

「基質補助液」

成分（危険有害物質）： 過酸化水素 (Hydrogen peroxide)

化学特性（化学式等）： H_2O_2

分子量： 34.01

CAS RN： 7722-84-1

濃度又は濃度範囲： $\leq 5.5\%$

官報公示整理番号（化審法）：(1) -419

「基質液」

成分（危険有害物質）： エタノール (Ethanol)

化学特性（化学式等）： C_2H_5OH

分子量： 46.07

CAS RN： 64-17-5

濃度又は濃度範囲： $\leq 80\%$

官報公示整理番号（化審法）：(2) -202

4. 応急措置

- 吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師の診察/手当を受けること。呼吸器に関する症状が出た場合には医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合： 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。皮膚を多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当を受けること。
- 眼に入った場合： 水で数分間、注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の診察/手当を受けること。
- 飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

- 消火剤： 水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類。
- 使ってはならない消火剤： 情報なし
- 火災時の特有危険有害性： 利用できる更なる関連情報はない。
- 特有の消火方法： 危険でなければ火災区域から容器を移動させる。
- 消火を行う者の保護： 消火作業の際は、適切な保護具を着用し、煙等を吸い込まないように、風上から作業する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：
適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や粉じんやヒュームの吸入を避ける。関係者以外は近づけない。
- 環境に対する注意事項：
漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材：
適切な保護手袋と保護眼鏡を付けて処理する。漏えい物をペーパータオル等で拭き取って、適切な廃棄物処理容器に入れる。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気： 十分な換気ができる場所で取扱う。
- 安全取扱い注意事項： 換気の良い場所で取扱うこと。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。皮膚への接触、吸入又は飲み込んでではない。眼の中又は衣類に付けないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。
- 適切な衛生対策： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

- 適切な保管条件： 直射日光を避け、2～10℃に保存する。保存時には凍結しないように注意する。
- 技術的対策： 特になし。
- 混触禁止物質： 特になし。

安全な容器包装材料：特になし。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策：取扱い場所の近くに洗眼器と手洗い設備を設置する。

含有している成分（過酸化水素、エタノール）で以下の情報が報告されている。

管理濃度

過酸化水素： 設定されていない。

エタノール： 設定されていない。

許容濃度

過酸化水素

日本産業衛生学会（2013年度版）： 設定されていない。

ACGIH（2013年度版）： TLV-TWA 1ppm

エタノール

日本産業衛生学会（2013年度版）： 設定されていない。

ACGIH（2013年度版）： TLV-STEL 1000ppm

保護具

呼吸器の保護具： 防じんマスク、簡易防じんマスク

手の保護具： 適切な保護手袋を着用すること。

眼及び/又は顔面の保護具： 適切な保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具： 適切な保護服を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

	反応シート	酵素標識抗体
物理状態	シート	液体
色	白色	無色透明
臭い	データなし	データなし
融点／凝固点	データなし	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし	データなし
可燃性	データなし	データなし
爆発下限及び爆発上限界/可燃限界	データなし	データなし
引火点	データなし	データなし
自然発火点	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし
pH	-	データなし
動粘性率	データなし	データなし
溶解度	データなし	データなし
n-オクタノール／水分配係数	データなし	データなし
蒸気圧	データなし	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし	データなし
相対ガス密度	データなし	データなし
粒子特性	データなし	データなし

	カゼイン緩衝液	PBS
物理状態	液体（懸濁液）	液体

色	乳白色	無色透明
臭い	データなし	データなし
融点/凝固点	データなし	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし	データなし
可燃性	データなし	データなし
爆発下限及び爆発上限界/可燃限界	データなし	データなし
引火点	データなし	データなし
自然発火点	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし
pH	ほぼ中性	ほぼ中性
動粘性率	データなし	データなし
溶解度	データなし	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし	データなし
蒸気圧	データなし	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし	データなし
相対ガス密度	データなし	データなし
粒子特性	データなし	データなし

	基質液	基質補助液
物理状態	液体	液体
色	無色透明	無色透明
臭い	データなし	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし	データなし
可燃性	データなし	データなし
爆発下限及び爆発上限界/可燃限界	データなし	データなし
引火点	データなし	データなし
自然発火点	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし
pH	ほぼ中性	ほぼ中性
動粘性率	データなし	データなし
溶解度	データなし	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし	データなし
蒸気圧	データなし	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし	データなし
相対ガス密度	データなし	データなし
粒子特性	データなし	データなし

10. 安定性及び反応性

「基質補助液」

- 安定性： 通常の使用であれば安定と考えられる。
- 危険有害反応可能性： 情報なし
ただし本試薬に含まれる過酸化水素は、強力な酸化剤である。
- 避けるべき条件： 情報なし

混触危険物質： アンモニア、炭素、金属、酸化剤
危険有害な分解生成物： 情報なし

「基質液」

安定性： 通常の使用であれば安定と考えられる。
危険有害反応可能性： 情報なし
ただし本試薬に含まれるエタノールは次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアと徐々に反応し、火災や爆発の危険をもたらす。硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件： 情報なし
混触危険物質： 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニア、硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤
危険有害な分解生成物： 情報なし

1.1. 有害性情報

「基質補助液」

含有している成分（過酸化水素）から以下のような有害性に分類される。

急性毒性： 過酸化水素が $\leq 5.5\%$ 含有のため区分に該当しない。
皮膚腐食性/刺激性： 区分1である過酸化水素が $\leq 5.5\%$ 、含まれることから区分1に分類される。
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1）
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：
区分1である過酸化水素が $\leq 5.5\%$ 含まれることから区分1に分類される。
重篤な眼の損傷（区分1）
呼吸器感作性又は皮膚感作性：
呼吸器感作性：データがなく分類できない。
皮膚感作性：過酸化水素が $\leq 5.5\%$ 含有のため区分に該当しない。
生殖細胞変異原性： 過酸化水素が $\leq 5.5\%$ 含有のため区分に該当しない。
発がん性： 区分2である過酸化水素が $\leq 5.5\%$ 含まれることから区分2に分類される。
発がんのおそれの疑い（区分2）
生殖毒性： 過酸化水素が $\leq 5.5\%$ 含有のため区分に該当しない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：
区分1である過酸化水素が $\leq 5.5\%$ 含まれることから区分2に分類される。
臓器の障害のおそれ（呼吸器）（区分2）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：
区分1である過酸化水素が $\leq 5.5\%$ 含まれることから区分2に分類される。
長期にわたる、または、反復ばく露により臓器の障害のおそれ（呼吸器）（区分2）
誤えん有害性： データがなく分類できない。

「基質液」

含有している成分（エタノール）から以下のような有害性に分類される。

急性毒性： エタノールが $\leq 80\%$ 含有のため、区分に該当しない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：

区分2Bであるエタノールが $\leq 80\%$ 含まれることから区分2に分類される

強い眼刺激（区分2）

呼吸器感作性又は皮膚感作性：

呼吸器感作性：データがなく分類できない。

皮膚感作性：データがなく分類できない。

生殖細胞変異原性： エタノールが $\leq 80\%$ 含有のため、区分に該当しない。

発がん性： 区分1Aであるエタノールが $\leq 80\%$ 含まれることから区分1Aに分類される。

発がんのおそれ（区分1A）

生殖毒性： 区分1Aであるエタノールが $\leq 80\%$ 含まれることから区分1Aに分類される。

生殖能または胎児への悪影響のおそれ（区分1A）

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：

区分3であるエタノールが $\leq 80\%$ 含まれることから区分3に分類される。

呼吸器への刺激のおそれ、または、眠気またはめまいのおそれ（区分3）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：

肝臓に対しては区分1であるエタノールが $\leq 80\%$ 含まれることから区分1に分類される。

長期にわたる、または、反復ばく露により臓器の障害（肝臓）（区分1）

中枢神経系に対しては区分2であるエタノールが $\leq 80\%$ 含まれることから区分2に分類される。

長期にわたる、または、反復ばく露により臓器の障害のおそれ（中枢神経系）（区分2）

誤えん有害性： データがなく分類できない。

1.2. 環境影響情報

「基質補助液」

含有している成分（過酸化水素）から以下のような有害性に分類される。

生態毒性

水生環境有害性、短期（急性）： $\leq 5.5\%$ 含有のため区分に該当しない。

水生環境有害性、長期（慢性）： $\leq 5.5\%$ 含有のため区分に該当しない。

残留性・分解性： 情報なし

生物蓄積性： 情報なし

土壌中への移動性： 情報なし

オゾン層への有害性： 情報がなく分類できない。

「基質液」含有している成分（エタノール）から以下のような有害性に分類される。

生態毒性

水生環境有害性、短期(急性)：≤80%含有のため区分に該当しない。

水生環境有害性、長期(慢性)：≤80%含有のため区分に該当しない。

残留性・分解性： 情報なし

生物蓄積性： 情報なし

土壌中への移動性： 情報なし

オゾン層への有害性： 情報がなく分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 残余廃棄物は、廃棄物に関する規定に従って、医療廃棄物または産業廃棄物等区別して処理する。

汚染容器及び包装： 使用した汚染容器や残余の試薬を廃棄して水で十分洗浄した容器は、廃棄物に関する規定に従って処理する。

1 4. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

輸送に際しては直射日光を避け、容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下および損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法： 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(法第57条・第57条の2、施行令第18条・第18条の2) 政令番号別表第9の126号(過酸化水素) 皮膚等障害化学物質等(則第594条の2)(過酸化水素)

本製品は労働安全衛生法表示・通知対象物質である。

政令番号別表第9の61号(エタノール)

本製品は労働安全衛生法表示・通知対象物質である。

毒物及び劇物取締法： 劇物 指定令第2条第19号(過酸化水素) 本製品での含有率は6%以下のため該当しない。

化学物質排出把握管理促進法： 該当なし

1 6. その他の情報

主な引用文献

職場のあんぜんサイト <http://anzeninfo.mhlw.go.jp/index.html>

NITE 化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)

https://www.chem-info.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/systemTop

記載内容については、現時点で入手できる資料等に基づいて作成したのですが、すべてを網羅しておりませんので、取扱いの際には十分注意してください。